ふるさとの誇り 其の34

鋳物師屋遺跡の土偶と土器 イギリスへ

イギリス大英博物館への貸出

今年の秋にイギリスの大英博物館で行われる「土偶展」（仮称）に南アルプス市の鋳物師屋遺跡から出土した土偶と土器（国重要文化財）2点が貸し出されます。

この「土偶展」には、日本中からよりすぐられた67点の土偶が展示されます。土偶は日本の縄文時代の精神世界や信仰の形を表現した芸術品として世界的に評価が高いのです。

鋳物師屋遺跡の出土品は、過去にも大英博物館へ出品したことがあり、今回は大英博物館たっての希望で選ばれたようです。

日本縄文文化の顔

櫛形地区下市之瀬にある鋳物師屋遺跡は平成4、5年に発掘調査が行われ、縄文時代中期のムラの跡が発見され、大量の土器や石器などが出土しました。それらの内205点が国の重要文化財に指定されています。

中でも「円錐形土偶」と、「人体文様付有孔鍔付土器」の2点は日本の縄文文化を代表する資料としてさまざまな本の表紙を飾ったり、世界中の博物館で紹介されています。※1

実はこれらの2点を中心に、鋳物師屋遺跡の出土品はこれまでにも海外で紹介されていて今回で実に6回目を数えます。海外展の常連ともいえ、まさに日本縄文文化の顔なのです。

※1 詳しくは19年7月号をご覧ください

鋳物師屋遺跡海外貸出歴

平成７年　国重要文化財に指定される
平成７年　イタリアローマ市立展示館
平成９年　マレーシア国立博物館
平成13年　イギリス大英博物館
平成14年　韓国国立中央博物館
平成18年　カナダ国立モントリオール博物館
平成21年　イギリス大英博物館

円錐形土偶（えんすいけいどぐう）［高さ25.2㎝　重要文化財］

円錐（えんすい）形のお腹をした大型の土偶で、大きく膨らんだお腹には左手が添えられ、右手は腰をおさえ子供を宿した母親の姿を表しています。家族やムラの繁栄を願った鋳物師屋遺跡縄文人の愛情が伝わる、非常に貴重な資料といえます。

人体文様付有孔鍔付土器（じんたいもんようつきゆうこうつばつきどき）［高さ54.4㎝　重要文化財］

土器の表面に踊っているかのような姿が描かれています。縁の下に孔（あな）があるこの土器は、酒造用容器や、太鼓という説などがあり、いずれにしても祭りごとなどに用いる特殊な道具とみられます。

「ふるさと文化伝承館」で展示

これらの資料は7月下旬の貸出※2まで、オープンしたての「ふるさと文化伝承館」で常設展示しています。

重要文化財205点全てと、指定外のものも含めて展示しています。貸出後はレプリカの展示となりますので、ぜひ、貸し出される前に実物をご覧ください。

【「土偶展」（仮称）概要】

○大英博物館にて
平成21年9月10日～11月22日（予定）

○東京国立博物館にて（帰国展）
平成21年12月15日～平成22年2月21日（予定）

※2 貸出の詳細な日程はセキュリティー上公開できません。その後は3月頃の返却までレプリカを展示します。